学校経営計画

2023 年４月
大田区立北糀谷小学校
校長　細　井　鏡　子

はじめに

北糀谷小学校は、今年度、開校 147 周年を迎えます。明治・大正・昭和・平成・令和と、激動の時代を過ごす中、大勢の卒業生に見守られ伝統を築いてきた学校です。これまで教職員、児童、保護者、地域の人々が営々として築いてこられた歴史と伝統、特色ある教育活動を基本にしながら、今年度も、キャリア教育を要に、予測困難な未来社会を生きるための意欲や資質・能力の育成を図り、創造性と可能性のある学校経営をしていきます。

学校は、児童の人格形成、変容をめざして教育活動を進めるところです。教職にかかわっている者にとって、児童が希望と期待に胸を膨らませ、目を輝かせて登校し、一日を終え、充実した気持ちで家路につく姿を送ることが願いであり、喜びでもあります。どのような困難な状況でであっても、「学びの保障」とともに「楽しさの保障」をしっかり行い、主体的に取り組む児童の育成をとおして**「今日が楽しく、明日が待たれる学校」**となるように努めます。そして、「これまで」と「今」を「これから」につなぐ教育活動、子どもたちの将来を見据えた教育活動をしていきます。

さまざまな本校の教育課題を解決するためには、家庭や地域との連携が不可欠です。今年度も、**「行きたい学校　帰りたい家庭　住みたい地域」**を合い言葉に、学校・家庭・地域がそれぞれの機能を発揮し、協力・協働して子どもたちを育てていく、本校ならではの連携の体制を一層充実させていきます。

学校経営の基本方針

１　公立学校としての役割と責任を果たす組織体とする
２　教育の専門職としての誇りと自覚をもった教師集団とする
　・キャリア教育の研究をとおして教員としての資質・能力を高め合う
　　児童の主体性が育つキャリア教育の実践と評価の充実を図る
　・高学年で教科担任制を実施し、授業力の向上に努める
３　初めに「児童ありき」をすべての教育の基本とする
４　児童の「長所の伸長」を指導観とする
５　きこえ・ことばの教室設置校の専門性を生かし、個に応じた教育をすすめる
６　保護者や地域の声を大切にして経営する

１ 学校教育目標

○元気な子　　○よく考える子　　○仲よくする子　　○はたらく子

２ 目指す学校像

『これまで』と『今』を『これから』につなぐ
今日が楽しく　明日が待たれる学校

合い言葉は　～行きたい学校　帰りたい家庭　住みたい地域～

３ 学校経営の中期的目標と方策

（１）主体的に学ぶ児童を育てる（学力の向上、体力の向上）

方策１　個に応じた指導を充実させ、基本的な知識・技能を身に付けさせるとともに、知的好奇心を刺激し、発見の喜び、驚きや感動を生む授業を創造し、児童の学習意欲を喚起する
高学年で教科担任制を実施し、授業力の向上に努める

方策２「家庭学習のすすめ」を活用し、学習習慣が身に付くように保護者への啓発をする

方策３　キャリア教育を要とした校内研究・研修を充実させ、教師の授業力を高める
通知表での評価を年間２回とし、次につながる評価の充実を図る

方策４　体育部(教員の組織)を拡充し、児童の体力の向上について組織的に取り組む

（２）自分も友達も大切にする児童を育てる（特別活動の充実、人権教育、道徳教育の推進）

方策１　人権尊重の精神を基調とし、差別や偏見、いじめを見逃さない

方策２　道徳科の授業の充実を図り、心の教育を推進する

方策３　特別活動をとおし、よりよい人間関係の育成を図る
特に、たてわり班あそび、交流活動等、異学年の交流をとおした取組を一層充実させる

方策４　ＰＴＡ行事・地域行事などの機会をとおして、地域・社会への参画意識を育てる

（３）キヤリア教育を推進し、主体的に取り組む児童を育てる

方策１　そうじや給食当番、係、児童会活動などをとおして、はたらくことの大切さ、楽しさを味わわせる

方策２　キャリア・コーディネーターと連携し、第一線で活躍している人や地域の人の職業に関心をもち、はたらくことについて考える学習活動を行う

方策３　キャリア・パスポートを作成する際には、教師や家庭が対話的にかかわり、児童一人一人が自分の目標をもったり、自身の活動を振り返ったりできるように支援する

（4）学校のチーム力を高め、「行きたい学校・帰りたい家庭・住みたい地域」を合言葉に、学校・家庭・地域・関係機関との連携を一層推進し、特色ある教育の充実を図る

方策１　教職員の和を大切にし、各分掌主任等を中心に、組織的に学校の取組の充実や課題の解決にあたる

方策２　学校支援地域本部「スクールサポート北糀谷」と地域教育連絡協議会の支援を仰ぎ、地域の教育資源の活用を通して地域ぐるみの教育活動を展開する

方策３　小中一貫教育、幼・保・小の連携に力を入れるとともに、関係機関と連携し、就学前から小中学校まで切れ目なくすこやかに心が成長していけるようにする

４ 目標実現のための主な方策

（1）未来を創造的に生きる子どもの育成　【 未来 】

＜大田区教育委員会キャリア教育研究推進校＞

・キャリア教育を推進し、主知的に取り組む児童を育てる

「STEAM」（S 科学　T 技術　E 工学　A 人文社会・芸術・デザイン M 数学）教育を推進し、教科などでの学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な教育を行う。未来を創造する力を育てるため、新設教科「おおたの未来づくり」に向けた取組を全学年で検討

し実践していく

- **コミュニケーション能力を高め、多様な価値を創造する児童を育てる**
- **論理的、科学的に思考し、新たな「知」を生みだす児童を育てる**
- **多様な情報を生かし、高度情報化社会を生きる児童を育てる**
- **考えの違いや多様性を尊重しながら共通性を見出し、ともに生きる児童を育てる**
- **健康の増進に努め、体力の向上を図る児童を育てる**

（2）学力の向上 【 知 】

① 思考力を高め、主体的に学ぶ力を育てる

〇全教育活動を通してキャリア教育を推進し、自ら考え、主体的に学ぶ態度を育てる

〇好奇心を刺激し、発見の喜び、驚きや感動を生む授業、「おもしろい」「なぜ」「分かった」「できた」「もっとしたい」などのつぶやきがある授業を創造する

〇各教科、学級活動、道徳科、学校行事などをカリキュラム・マネジメントした年間計画を作成し計画的に実践する

〇STEAM 教育を推進し、自ら課題を発見し、自ら解決していく学習展開を行う

〇「理科室」を「理科室・STEAM ルーム」とし、関連する教材・教具(3D プリンター、ロボット、メッシュ等)を置き、活用しやすくする。また、関連するポスター、資料を掲示していく

〇キャリア・コーディネーターや、地域・企業の協力のもと、６年生では職業インタビュー、キャリアカウンセリングを実施する

〇学んだことを生かせる機会を設け、試行錯誤しながら学びに向かう力を育てる

② 基本的な知識・技能を身に付けた児童を育てる

〇実態を踏まえた指導の焦点化を図り、児童にとって「分かる授業」を実践する

〇<u>高学年で教科担任制を実施し、授業の質の向上や、児童一人一人の学習内容の理解度・定着度の向上を図る</u>

〇算数の習熟度別少人数指導、タブレットを活用して「ステップ学習」や「東京ベーシックドリル」等を実施する

〇3 年生以上の学年で、学習指導補助員を活用し放課後補習や、土曜日補習を行い、基礎・基本の定着を図る

〇読みのつまずきへの早期発見・早期支援の充実を図るために、「まなびポケット」の多層指導モデル MIM を活用する

〇全児童を対象に大田区小学漢字検定を実施することにより、日本語の重要な要素である漢字の基礎・基本の確実な定着を図る

〇理科教育の充実を図るため、３年生～６年生までの各学級に理科支援員を配置する
実験や観察などの際に計画的に活用し、学習内容の定着を図る

〇「家庭学習のすすめ」や「自主学習ノート」、タブレット「まなびポケット」を活用し、家庭学習が習慣となるように保護者への啓発を粘り強く行う

③ ICT 教育、プログラミング教育を推進する

〇プログラミング教育への理解を深め、指導方法、活用方法などを企業と連携して開発する
各教科で育む思考力を基盤としながら、年間指導計画に従いプログラミング的思考を育む

〇企業と連携したプログラミングの学習を実施する 〈新設教科「おおたの未来づくり」へ向けた取組〉

<u>4.5 年生：「作ってみよう」３Dプリンター、「動かしてみよう」→製品の開発</u>

<u>６年生： 「ドローンを操作しよう」→製品の開発</u>

④ 豊かな表現力、発表力を育てる

〇国語科での伝え合う活動、学級会での話合い活動、生活科・総合的な学習の時間で学んだことの発表、スピーチ、委員会発表などの機会をとおして、豊かな表現力、発表力を育てる

〇タブレットの活用、視写教材を通して、読み解く力・書き表す力・言葉の力の伸長を図る

⑤ 教科外国語・外国語活動の充実を図る

〇外国語教育指導員を活用し、外国の言語や文化についての理解を深める

〇外国語の音声や基本的な表現に親しませながら、コミュニケーション能力を養う

〇高学年は、外国語担当教員が中心となって外国語教育指導員を活用し効果的な指導方法を探る

〇TGG への校外学習等を積極的に行い、外国の方と触れ合う機会を設ける

⑥ 読書活動をキャリア教育に位置づけ、推進する ＜月平均 １０冊以上をめざす＞

〇「朝の読書」や「読書週間」をとおして読書に親しむことにより、言葉への関心を高め、感性を磨き、創造力をのばし、豊かな心情をはぐくむ

〇図書室を活用し、キャリア教育と連携した読書活動の授業を充実させる

〇「望ましい本の選び方」についても指導をし、浸透させていく

〇読書学習司書を活用し、読書環境の整備、国語科の授業の並行読書の実施、大森南図書館からの団体貸し出しの継続を行う

（３）豊かな心の育成【 徳 】

① 生命尊重、人権意識を向上させる

〇いかなる命も大切にし、人として守らなければならない規律を重んじる指導を徹底し、規範意識の向上を図る。また、人としての権利や義務を尊重する態度を確実に身に付けさせる

〇偏見や差別の不合理に気付かせ、さまざまな人権問題について理解させるとともに、自他を尊重する心情や態度を育てる

〇特別の教科道徳の授業を主として、日常から道徳的な実践力を養っていく

道徳授業地区公開講座を開催し、家庭・地域社会が一体となった「心の教育」を推進する

〇小中一貫教育 「3 校共通生活指導スタンダード」を活用し、同一歩調で指導を実施し、定着を図る

〇特別支援教育への理解を促進し、特別支援教室巡回教員、特別支援専門員と在籍学級の担任が協働することにより、児童が抱える困難さを改善し、児童一人一人の能力を伸長する

〇「北糀谷小 SNS ルール」を策定し、情報モラルの意識を高める

② あいさつの指導を継続する

〇あいさつをコミュニケーションの基本ととらえ、生活指導の目標に掲げ、自らあいさつのできる児童を育成する 教職員が積極的に挨拶をする

〇「登校時のあいさつ活動」(輪番制)を実施するなど、児童の意識を高める取り組みを行う

PTA・地域の方へも協力を求めていく

③ 特別活動の充実を図る

〇特別活動を要にキャリア教育の実践を積み重ねる

〇心弾む楽しく充実した学級や学校生活をつくろうとする自主性と自治的活動の実践力を育てる

〇同学年・異学年の交流、委員会活動やクラブ活動、副籍児童との交流、保育園・幼稚園との交流などの活動を通して互いのよさに気付き、人とかかわることの楽しさを味わわせ、思いやりの心を育てる

〇そうじや給食などの当番、係、委員会などの仕事などをとおして、はたらくことについて考える

○自ら話し合い、計画し、合意形成の仕方を学び、集団決定したことを実践する活動を積み重ね、児童の自主性、自発性を伸ばすとともに、集団の一員としての自覚と、よりよい人間関係の育成を図る
○3 年生から６年生は年間２回、「WEB　QU 調査」を実施し、学級経営にいかしていく
○「話を聴くことは、相手を思いやる第一歩」とし、日常の指導を行う

（4）体力の向上と健康の増進　【 体 】

① 基本的な生活習慣を確立する
○年間を通して「早寝、早起き、朝ご飯」の定着を目指す。５、１０月の強化月間には、生活チェックシートを活用して、家庭と連携しつつ基本的な生活習慣の定着を図る

② 運動を日常化・習慣化させ、体力の向上を図る
○体育部(教員の組織)を拡充し、組織的に実践する
○「一校一取り組み運動」として、金曜日の朝の時間帯に「縄跳びタイム」(前期)、「マラソンタイム」(後期)を設定し、運動に慣れ親しむことを目指し、運動の日常化と健康増進、体力の向上を図る
○体育・健康教育授業推進地区公開講座の実施により、保護者・地域への啓発を図る
今年度も、講師を招いて指導を受ける(昨年度は、「正しい姿勢」「ゲームと脳」)
○体力テストの実施に当たっては、種目ごとに全国平均値を示し、児童に具体的な目標をもって取り組ませる
○マラソンタイムや大田区小学生駅伝大会への参加(5.6 年生)をきっかけに、運動の日常化と体力向上を図る
○１．２年生を中心に週１時間ずつ補助員を配置し、児童に運動の楽しさを味わわせ、安全確保と運動量の確保を図る

③ 食育の充実を図る
○学級活動、家庭科、給食の指導などをとおして、健康増進にかかわる「食」への理解と関心を高め、望ましい食習慣を身に付ける
○生活科、総合的な学習の時間、保健体育、家庭科、特別の教科道徳、学級活動などで、年間計画を立てて、発達の段階に応じて意図的に食育の指導を実施する

④ アスリートとの連携をとおして、スポーツに興味をもたせる
○これまで５年間にわたって交流してきたデフアスリート等との授業交流を、きこえの教室と連携して実施する

（5）魅力ある教育環境づくり　【 学校　・教職員】

＜学校マジメント強化モデル事業実施校＞

★教育の専門職としての誇りと自覚をもち、「率先垂範」して教育目標の具現化を目指す教師集団「チーム北糀谷」として全教育活動に取り組む。
★信頼関係を築くことを第一に、愛情と厳しさを兼ね備えた指導・支援を継続していく
★すべての教育活動において「命を預かっている」という責任感と危機感をもって指導する

① 授業改善のPDCAサイクルを確立する
○日々の授業での学習達成状況及び大田区学習効果測定などの結果を分析して授業改善推進プランを作成する
○自己申告の授業観察の際には、ねらいを明確にした授業を全教員が公開し、授業改善の

PDCAサイクルを確立し授業力向上に努める

② 校内研究・校内研修・OJTの充実を図る

○「主体的に取り組む児童の育成～キャリア教育の実践と評価～（仮称）」を研究主題に校内研究に取り組む。

○キャリア教育を研究推進委員会、学力向上委員会の２つのプロジェクトチームで、これまでの積み重ねを生かして組織的に行う。

プロジェクトC（キャリア教育の授業実践と評価）・・・・・・・・・・・・研究推進委員会

プロジェクトA（ICT教育・プログラミング教育、基礎・基本、朝学習、家庭学習等）

・・・・・学力向上委員会

○「いじめ防止」「不登校対策」「特別支援教育」「人権教育」「特別の教科 道徳」「アレルギー対応」などの研修会を行い、共通理解のもと実践に活かす

○都や区の研修受講者による還元研修を実施する

③ 個々の教員の専門性やよさを生かした授業実践を重ねていく

○児童の心身が発達し、一般的に抽象的な思考力が高まり、各教科等の学習が高度化する高学年では教科担任制を実施する

(他学年も、教科ごとや単元ごとに交換授業を積極的に行い、授業力の向上に努め、成果と課題についてまとめていく)

○授業の質の向上や、児童一人一人の学習内容の理解度・定着度の向上を図る

○教務主任・生活指導主任・研究主任・校務改善経営専任の軽減講師を活用し、教員の持ちコマ数の軽減や授業準備の効率化を図る

④ 特別支援教育を推進する

○すくすく委員会(特別支援教育委員会)を月に１回開催し、配慮を要する児童の共通理解を図る

○教育相談的手法を生かし、児童一人一人に寄り添う適切かつ迅速な支援を行うことで、児童の不安や悩みを和らげる

○特別支援教育コーディネーターやスクールカウンセラーを中心に、就学支援シートを活用した個別指導計画の作成・実施を着実に進める

○今年度より学校特別支援員を週４日配置する

○難聴・言語障害通級指導学級設置校のよさを生かして一人一人に応じた指導の充実に努める

○サポートルーム(特別支援教室)においては、専門員の連絡・調整のもと、巡回指導教員と学級担任が協働することにより、児童が抱える困難さを改善し、学習能力や集団適応能力の伸長を図る

⑤ 不登校対策・いじめ防止・自殺防止教育を充実する

○不登校コーディネーターの役割を明確にして、担任や関係機関と連携して、登校が困難となっている児童や保護者の心に寄り添って対応を行い、改善を図る

○児童や保護者のメンタルサポートとして、スクールカウンセラーの相談活動を充実させる

○今年度より登校支援員を週２回配置し、一人一人の児童にあった登校しやすい環境をつくっていく

○「学級活動」などで、「心の教育」を実施する　６年生には「SOS の出し方について」を指導する

○「子どもの心サポート月間」(６月と 11 月)には、４年生以上に学校生活調査を実施し、いじめや不登校など、心の悩みへの早期発見・対応をする

○「北糀谷小学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止に向けて組織としての対応をする

〇いじめは、いつでもどこでも起こりうるものと認識し、いじめの見逃しゼロ、早期発見・早期対応を徹底する。アンケートを学期ごとに実施するとともに、相談ポストを校長室前に常時設定する
〇スクールソーシャルワーカーや適応教室つばさ、子ども家庭支援センターとの連携を図り、不登校の未然防止及び解決に向けての取り組みを充実させる
〇虐待、暴力などの情報は、子供家庭支援センター、児童相談所などに報告する

⑥ うるおいのある環境にする
〇言語環境を整える　教師の言葉が、教育環境に大きな役割を担っていることを自覚する
〇教室環境を整備し、清潔で落ち着いて学習できる環境をつくる
〇学習意欲を高める児童作品などの掲示の工夫に努める
〇教材・教具を整備し、活用しやすい条件を整える
〇四季の変化を感じられるように、学級園、花壇、校内の自然園、ビオトープの環境を、理科や生活科、総合的な学習の時間を活用して児童とともに整えていく

⑦ 教職員自ら心と体の自己管理をする
〇教職員自らが、法令に従うのはもちろん、言語、服装、行動など、教職員としての自覚もち常に笑顔で人と接することができる心と体の健康に努める

⑧ 小・中一貫教育を推進する
〇小・中一貫教育授業改善推進プランを作成し検証していく
〇児童・生徒の情報を共有し、全ての子どもたちが健やかに成長できるように連携する

⑨ 働き方改革を推進する
〇副校長アシスタント、教員支援員、学校特別支援員、登校支援員等を活用する
〇 C4th「会議室」「掲示板」を活用し、ペーパーレス、会議の精選を行っていく

⑹安心・安全な学校づくり　【 学校 】

① 学校のきまりを周知徹底する
〇日常より、学校のきまり「みんなの 10 の約束」を全教員が共通理解し、児童の規範意識を育てる。「みんなの 10 の約束」の振り返りを行い、事後指導に役立てる

② 事故・けがの未然防止に努める
〇どんなときも「話を聞く姿勢」をきちんと身に付け、落ち着いて行動することを基本に、事故・けがを未然に防ぐ
〇災害時の安全な避難行動にも活かしていく
〇施設・設備の安全点検には、日常から細心の注意をはらう

③ 事後対応は、素早く、誠意をもって行う
〇「報告・連絡・相談」を習慣化する
〇マニュアルにそって、素早く対応する
〇首から上のけがは、必ず保護者に連絡する
〇誠意をもった対応で、児童や保護者が安心できるようにする(初期対応を丁寧に)

④　緊急時に備える

〇「備えよ、常に」を合い言葉に、緊急事態（事故、けが、自然災害等）を想定したマニュアルを整備し、全職員が活用し、いざという時に、慌てず、冷静に、判断・行動ができるようにしておく

（7）家庭・地域とともに歩む開かれた学校づくり　【 学校・家庭・地域 】

①　学校情報の積極的に公開する

〇毎学期、土曜日を含む学校公開日を設定し、日頃の学習活動を家庭・地域に示す

〇教育活動への理解を促すとともに、学校評価に役立てる

〇学校は積極的に情報発信を行い、（学校ホームページ、学校経営計画、自己評価報告書、学校だより、学校日記など）、活動にかかわる説明責任を果たす

②　家庭との連携を深める

〇学校に相談しやすい環境をつくり、家庭との連携を深め、児童理解に生かす

〇「家庭学習」や「生活改善チェックリスト」などの取り組みへの理解と協力を促し、家庭とともに、児童の学力向上と豊かな心の育成に努める

〇保護者向け情報モラル研修を行う

〇不登校対策コーディネーターを中心に児童や保護者へのサポートを充実する

③　地域の教育力を活かし、地域・社会と一体となった教育活動を実践する

〇学期に１回、休業日に学校公開日を設定する。年１回、土曜日を含む平日学校公開日を設ける。児童の学校生活の様子や授業を保護者・地域に公開し、実施後にはアンケートをとり、授業改善に生かす

〇地域教育連絡協議会を実施し、健全育成の推進、学校評価関係者評価などを行う
学校は、そこで得た地域の声を学校の教育活動に確実に活かしていく

〇学校支援地域本部「スクールサポート 北糀谷」と一層の連携を図り、さらに充実、発展させる

〇北糀谷保育園、北糀谷幼稚園などの訪問活動をとおして、地域の方々との好ましい人間関係を育てる
(感染状況による)

〇「放課後子ども教室」と協力して、児童の放課後の生活の充実に努める

〈新設教科「おおたの未来づくり」へ向けた取組〉

〇海苔づくり体験など、地域の特色である「ものづくり」の文化伝統にふれる機会を設け、体験的な活動をすることをとおして、地域を愛する児童を育てる

〇地域の工場、特色ある場所やお店の見学や、地域の行事への参加をとおして、地域の人とのかかわりや、地域の歴史や文化を知るとともに、地域の一員としての自覚を育てる

〇新設教科「おおたの未来づくり科」に向けた「地域の創生」となる教材・人材を見つけ実践する

〇金管バンドクラブによる演奏をとおして、地域との交流を図っていく

④　学校防災拠点としての役割を果たす

〇地域町会と連携して、「災害に立ち向かう学校」としての役割を担っていく
(備蓄倉庫の整備、避難訓練への参加など)

〇児童への防災指導、ボランティア精神を養う指導を行い、将来、地域に貢献できる児童を育てる